

帯笑園について

帯笑園は江戸時代から昭和初期まで代々
植松家が所有していた東海道を代表する名
園です。ここには園を訪れた人々が記した芳
名帳や書画の記録が残っており、高名な芸術
家の他、将軍や大名・貴族、明治時代には皇
族の来園があったことがわかります。

1800年頃の6代当主は^{まるやまおうきよ}円山応挙など京の
絵師や学者たちと親交があり、多くの書画を
集めました。またオランダの医師シーボルト
も訪れ、庭の美しさと植物の豊富さに感嘆し
たとの記録があります。

帯笑園の詳細な絵図面や草花の栽培記録
等は、現在も保管されています。帯笑園は当
時の人々にとって、庭が草花の鑑賞だけでな
く、文化・文芸の交流の場となっていたことを
伝える貴重な庭園なのです。



帯笑園とその周辺案内

興国寺城跡◆戦国の雄 北条早雲の城 伝天守台から原の町並みが一望できる
白隠の里◆民衆にやさしく禅の教えを説いた名僧 白隠禅師ゆかりの地区



■帯笑園までのアクセス

東海道本線 JR原駅より徒歩7分

新東名高速道路 駿河湾沼津スマートICから約15分

帯笑園 (たいしょうえん)

静岡県沼津市原194-1

◆開園日 土曜日、日曜日、祝日

◆開園時間 9時～16時

◇多目的広場・トイレ・駐車場は毎日
8時30分から16時30分までご利用で
きます。

問い合わせ先

沼津市文化財センター

住所：静岡県沼津市志下530

電話：055(935)5010

FAX：055(933)1270

Email: cul-bunkazai@city.numazu.lg.jp

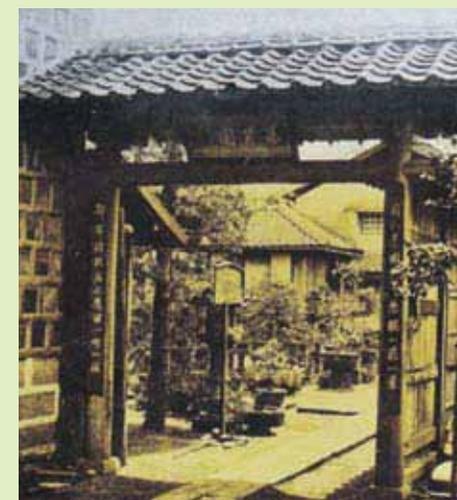


FB沼津の文化

国登録記念物

たいしょうえん
帯笑園

皇室も愛した
東海道随一とうたわれた名園



かつての東海道沿いにあった帯笑園への門。
両脇の対聯(ついれん)には、花に触れないこと、詩
歌の心得のあるものは歌を詠むこと、と書いてある。

沼津市教育委員会

原宿について

「原」という地名は愛鷹山の山裾と千本松原のある砂州さすの間に形成された広大な湿地帯である「浮島が原」うきしまがはらの名に由来しています。富士を望む景勝の地として知られ、多くの和歌に詠われ、浮世絵にも描かれてきました。

江戸時代に入り、幕府が江戸(日本橋)から京都(三条大橋)までの東海道の駅制を定めました。東海道13番目の宿場であった原宿には、寛永10年(1633)頃、現在の帯笑園付近に本陣ほんじんと脇本陣わきほんじん、問屋場とんやば、25軒の旅籠はたごがありました。東海道では比較的小さな宿場でした。



かつての東海道原宿の古写真

帯笑園の見どころ

①望嶽亭 沓脱石(ぼうがくてい くつぬぎいし)

庭の中心にあった望嶽亭からは、富士の眺めと植物コレクションを楽しむことができました。現在も沓脱石が残されています。



②植松叟花園記(うえまつそうかえんき)と岸駒(がんく)の虎の石碑

京の文人、皆川淇園(みながわきえん)が文章を書き、書家の巻菱湖(まきりょうこ)が筆に起こした庭の由来記です。裏面には虎の絵で有名な岸駒の「うずくまる虎」が描かれています。



③万花谷(ばんかこく)

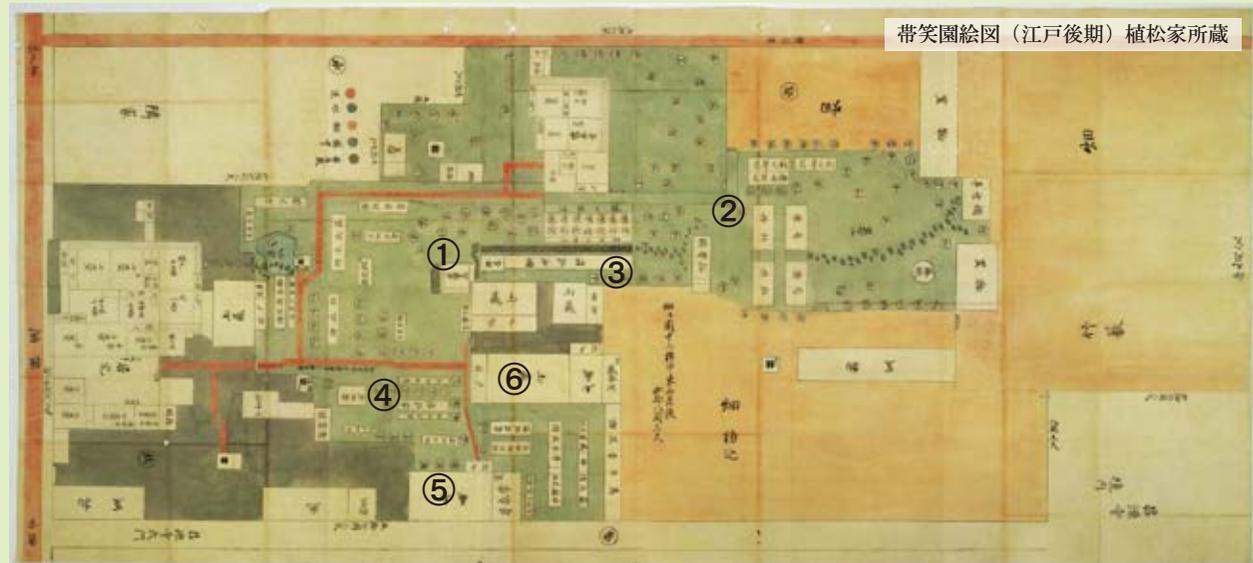
美しく石を並べた延段のべだんの両側に植松家が集めた珍しい花や舶来の植物の鉢植えが、季節に因んで並んでいました。現在も延段は残っています。



④臨春亭(りんしゅんてい)

帯笑園内に残る植松家の居宅の一部。この他園内には⑤西藏(にしくら)と、古くから残る⑥居間蔵(いまくら)が残っています。

西藏と臨春亭は催しにも使用できます。詳しくは、[お問い合わせ下さい](#)。



帯笑園絵図(江戸後期) 植松家所蔵

現在の帯笑園は昔の3分の1程度の広さとなっており、庭の中心は残っており、昔を偲ぶことができます。園内の番号は、上の建物や見どころに凡そ対応しています。